

香川県教育委員会 11月定例会会議録

1. 開催日時 令和4年11月14日(月)
開 会 午前10時00分
閉 会 午前11時25分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教 育 長	工 代 祐 司
委 員	小 坂 真 智 子
委 員	平 野 美 紀
委 員	藤 澤 茜
委 員	木 下 敬 三
委 員	蓮 井 明 博

4. 教育長及び委員以外の出席者

副教育長(兼)新県立体育館整備推進総室長	近 藤 誓 吾
教育次長(兼)政策調整監	海 津 洋
教育次長	金 子 達 雄
総務課長	藪 木 泰 伸
義務教育課長	三 好 健 浩
高校教育課長	吉 田 智 明
特別支援教育課長	藤 田 明
保健体育課長	宮 滝 寛 己
生涯学習・文化財課長	荻 原 絢 嗣
政策主幹(兼)総務課副課長	佐々木 隆 司
総務課長補佐	本 田 実 治 博
義務教育課長補佐(兼)主任管理主事	藤 井 祐 治
高校教育課長補佐(兼)主任管理主事	長 林 真 司
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	渡 邊 謙
保健体育課長補佐(兼)主任体育主事	荒 井 憲 司
健康福利課長補佐	新 名 智 子
総務課副主幹	大 原 裕 次 郎
義務教育課副主幹	徳 井 誠 二
保健体育課副主幹	起 修 司
特別支援教育課主任指導主事	鳥 井 口 隆
義務教育課主任管理主事	仲 西 長 代
高校教育課主任管理主事	来 田 淳

高校教育課主任管理主事
高校教育課主任指導主事
総務課主任
高校教育課主任
特別支援教育課主任

藤 谷 丈 雄
亀 田 龍 輔
猪 池 美 智 子
高 森 俊 介
多 田 明 日 美

傍聴人 1名

5. 会議録の承認

10月26日に開催した定例会の会議録署名委員の藤澤委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題のうち、第1号は、教育委員会において会議を公開しないことと定めているもののうち、「県の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるもの」に該当するため、非公開としたい旨を発議。

各委員に諮り、非公開とすることに決した。

7. 議 案

○議案第1号 令和4年11月香川県議会定例会に提案される教育委員会関係議案に対する意見について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

8. その他事項

○その他事項1 令和5年度香川県公立学校教員採用選考試験「秋募集」の結果について

義務教育課長から、令和5年度香川県公立学校教員採用選考試験「秋募集」の結果について説明。

【質疑・意見交換】

<蓮井委員>志望理由で、香川県には縁もゆかりもないが香川県で穏やかに暮らしたいと移住を決意し出願した方がいたとのことであるが、このような方は一定数

いるのか。

＜義務教育課長＞多くの方は、配偶者が香川県出身である、自身の祖父母が香川県在住者である等の理由があった。香川県にまったく縁もゆかりもない方に、何故香川で教員を希望するのかを聞いたところ、香川に行ったことがあり、素晴らしい自然や県土がコンパクトにまとまっていることから住みたいと考えたり、島が魅力的であると考えて志望された方もいた。

＜蓮井委員＞そのような意味では香川県のPRも含め、全国的に香川県の良さが発信されることにもつながっているので良いことである。

＜教育長＞秋募集はいつから開始したのか。また、中学校の募集はいつから始めたのか。

＜義務教育課長＞秋募集は令和元年度実施の試験から開始し、中学校の募集は令和2年度から実施しているが、当初は教科の指定があったが、昨年度からすべての教科を対象とした。

＜平野委員＞受験者の男女比はどうだったのか。

＜義務教育課長＞合格者も受検者も概ね半々程度である。

＜木下委員＞そもそも秋募集を始めたのは何故か。

＜義務教育課長＞通常の採用試験で他県と併願した受験生が辞退することが多かったことや、県として採用したいと考えている30代前半から40代の年齢層の方は、大学卒業時期には競争倍率が非常に高く、香川県出身であるが他県で合格し教員をしている方がいるのではないかと考え、その方々が香川で教員をしたいという希望があるならば秋募集を実施し、香川に呼び戻せないかと考えたところである。

＜木下委員＞合格率が高く感じるが、それだけ優秀な方が揃っていたということか。

＜義務教育課長＞通常の採用選考試験の合格ラインと照らし合わせて、そのラインを超えている方を合格としている。

＜教育長＞令和元年度から実施し、今回で4回目ということで、これまで3回実施している。県外で教員をしていた方が香川県で教員として勤務しているが、その方々と座談会等を実施できれば、外から見た香川の教育についてプラスの面やマイナスの面が見えるのではないか。

＜義務教育課長＞他県から見た香川の良いところ、課題などが見えたらよいと考える。

＜小坂委員＞校長を含む管理職なども受験できるようになっているが、受験をされた方の中に、実際に管理職はいるのか。

＜義務教育課長＞過去には、教頭先生をされていた方で受験をし、現在、教諭として勤務している方がいる。

○その他事項2 令和6年度香川県公立学校教員採用選考試験の日程について

高校教育課長から、令和6年度香川県公立学校教員採用選考試験の日程について説明。

【質疑・意見交換】

＜教育長＞文部科学省から教員採用試験の前倒しや複数回受験の実施といった話があるが、それは、国において協議会などを開催しているのか。

＜義務教育課長＞「教員採用選考試験の在り方に関する関係協議会」という名称で、10月に1回目の会が開催され、次回は、11月22日に開催されることとなっている。

＜教育長＞その協議会の中に、各都道府県の職員が参加するということか。

＜義務教育課長＞各都道府県の採用担当者、担当課長や教育関係団体の方も参加することとなっている。

＜教育長＞全体の工程表（スケジュール）は、どのようになっているのか。

＜義務教育課長＞スケジュールは特に示されていない。

＜高校教育課長＞10月の会では、趣旨説明があった程度で、今後、スケジュールなどが示されてくるのではないかと考えている。

＜教育長＞令和6年度の教員採用選考試験から始めることは時間的に無理であると考えているが、令和7年度からの開始を目指しているのか。

＜義務教育課長＞現時点では、詳細は分からない。

＜教育長＞教員採用試験の見直しは、もともとは中央教育審議会の答申で示されたのか。

＜高校教育課長＞文部科学大臣が交代し、教員不足問題を解消するためにはこのような手法もあると発言されたことが直接的なスタートではないかと思っている。

＜教育長＞中四国で採用試験の実施時期が早いのは、高知県だけで、その他の県は横並びで実施しているのか。

＜義務教育課長＞そのとおりである。

○その他事項3 令和5年度における県立学校の生徒の定員について

高校教育課長から、令和5年度における県立学校の生徒の定員について説明。

【質疑・意見交換】

＜教育長＞高松北中学校から高松北高校に進学しない生徒のうち、三分の一が進学を理由とし、残り三分の二は部活動を理由として他校に進学するのか。

＜高校教育課長＞残り三分の二の大多数は、部活動を理由としているが、若干名は人間関係を変えたいという生徒もいるようである。

＜教育長＞どのような部活動をしたいなど、明確な理由は把握しているのか。

＜高校教育課長＞県外の私立高校を希望する生徒や、県内の私立高校を希望する生徒もいる。以前に比べると進学を理由とするよりも部活動を理由とする生徒が増えているように感じている。

＜小坂委員＞高松北中学校にある部活動は高松北高校にもあると思うので、部がな

い競技を実施するために他校に進学を希望することは理解できるが、高松北高校に部があるが他校の部で活動したいという生徒もいるということか。

＜高校教育課長＞委員御指摘のとおり、クラブチームなどに所属し、高校からその競技の強豪校に進学を希望する生徒はいる。ただ、そうではなく野球やバスケットボールなど部はあっても他校での活動を希望する生徒もいる。

＜藤澤委員＞県外への進学希望者もいるとのことであるが、今年度の 17 名の生徒のうち、県外に進学を希望する者は何名くらいいるのか。

＜高校教育課長＞県外進学希望者は 3 名である。

＜木下委員＞今年度は 17 名の生徒が他校への進学を希望しているが、一人ひとりの生徒に聞き取り調査を行っているということか。

＜高校教育課長＞担任や学年団長等を交えて面談を実施し、一人ひとりの生徒の進学について把握している。

＜木下委員＞今後、詳細な理由を教えてください。

○その他事項 4 令和 5 年 3 月香川県公立高等学校卒業予定者の就職内定状況について

高校教育課長から、令和 5 年 3 月の香川県公立高等学校及び県立特別支援学校の卒業予定者の就職内定状況について説明。

【質疑・意見交換】

＜平野委員＞就職後のフォローアップを実施していると思うが、就職後の継続状況はいかがか。

＜高校教育課長＞フォローアップについては、ジョブサポートティーチャーが就職 1 年目の職場を訪問している。また、県内就職率が約 9 割で、毎年生徒が就職する会社も多いため、母校の教員がその会社を訪問した際に、就職した生徒の状況を確認することも多いことから、就職 3 年以内の離職率は全国に比べて香川県の公立高校出身者については低く抑えられている。

＜平野委員＞香川大学には夜間主コースがあり、アルバイトをしながら通学している生徒がいるが、その場合は、高校卒業後の進路は就職となるのか。

＜高校教育課長＞進学したこととなる。

＜教育長＞特別支援学校が、就職率 22%で、様々な理由から心配する必要はないとのことであるが、詳細な理由が知りたい。

＜特別支援教育課担当＞特別支援学校の就職希望者が全体で 40 名程度であり、1 名が内定するか否かにより 2～3%内定率が変動する。特別支援学校の高等部では、10 月中旬から 11 月中旬にかけて企業で実習を行い、その結果で就職が内定する生徒が多い。今年度に関しては、実習期間の遅い学校に就職希望者が多く、まだ例年に比べて内定者が少ない。進路指導担当に確認したところでは、12 月末頃には例年並みの内定率になる見込みとのことである。

＜教育長＞高校では公務員志願者が多いとのことであるが、明確に増えているのか。

＜高校教育課担当＞学校によっては、10名増加している学校があるなど、明らかに増加している。3校で確認したところ、合計で13名増加している。

＜教育長＞増加した理由は。

＜高校教育課担当＞安定した職に就職することを希望し、安定イコール公務員と考える方がいるようで、警察や自衛隊を含めて希望しているようである。

＜蓮井委員＞大学の就職支援においても、コロナの影響により、安定志向が高まっているような心証を受けている。公立高等学校の就職希望者が減少し、就職希望率が15.4%と過去最低になったとのことであるが、これは趨勢的に落ちているのか、景気循環に応じて凸凹しながら減少しているのか。

＜高校教育課長＞継続的に減少している。

＜蓮井委員＞大学全入時代が来ているということか。

＜高校教育課長＞大学、専門学校合わせての数字であるが、その傾向があると考えられる。例えば、中学校の保護者に将来の夢を聞いても、仕事の名称ではなく大学進学をあげられることもあり、そのような意識が高まっているのではないかと感じている。

＜蓮井委員＞それは、大学進学傾向が高まっており、景気循環の影響はあまり関係ないということか。

＜高校教育課長＞景気循環の影響は感じていない。

○その他事項5 令和4年度スーパーアスリート育成事業指定選手（追加選手）について

保健体育課長から、令和4年度スーパーアスリート育成事業の追加指定選手について説明。

【質疑・意見交換】 無し